

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 多様な入試形態の学生の質的向上を促進する(入試形態別、指定・提携・継続・協定校別の入学後の追跡調査の精緻化、調査分析結果の受入れ人員枠設定への反映等による、意欲的な学生の受け入れ促進)。	→指定・提携・継続・協定校に対する高校別追跡調査の実施(現行の入試形態別から、高校別に学業成績や他の活動等での活躍状況を追跡調査し、その後の学生の受け入れなどへ反映)。	A	A	A	A	A
2. プレゼンテーション審査を重視したAO入試制度を導入する(2010年度入試より導入)。	→AO入試のスポーツ実績以外の学生の割合(スポーツ以外のカテゴリーの学生の受け入れ50%以上の維持)。	A	A	A	A	A
3. 学生によるジョイント・ディグリー制度の利用を促進する。	→ジョイント・ディグリー制度を活用する学生数(5年以内に年間10名以上)。	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各種入試の検討は2010年度より諮問された入試検討委員会により毎年継続して取り組んできた。数学基礎テストの実施、IR コンソーシアムによる1年生調査などを実施し、その取り組みについて報告会を開催した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 入試改革とそれに準じた入学前教育(入学前課題の提供)、初年次教育(スタートアッププログラムの導入)を検討し実施に 至った。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入試形態別の入学前教育、初年次教育の必要性の検討と実施を継続させる。	☆
		その他	
			☆
目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか プレゼンテーションを利用したAO入試については、入試検討委員会において、追跡結果を踏まえて2015年度入試へ向けて 更なる検討を行い、執行部において運用内規を作成した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か プレゼンテーションを利用したAO入試を導入し、一定水準の入学者の確保ができた。しかし、昨今の入試状況を鑑みて、志 願者層拡大の必要性により、新方式を導入するに至った。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度入試よりAO入試において新方式を導入し、一定期間の継続により追跡調査する。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 新入生のオリエンテーションや説明会、履修心得などを通して、ジョイント・ディグリー制度の活用を呼び掛けている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度のジョイント・ディグリー制度を利用した者は6名であり、目標の年間10名以上には届いていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ジョイント・ディグリー制度(2014年度よりマルチプルディグリー制度)の周知。今後はさらに広報(ホームページやフェイスブッ クなど)にも力を入れる。	☆
		その他	
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	名	680	680	680	680	680	
指標2	志願者総数	人	7,205	5,628	5,210	5,657	5,304	
指標3	合格者数	名	1,753	1,744	1,889	1,708	1,650	
指標4	入学者数	名	614	661	741	679	656	
指標5	志願者倍率	倍	10.6	8.3	7.7	8.3	7.8	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.03	1.01	1.01	1.01	0.99	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	50.2%	48.6%	53.4%	46.8%	46.6%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	2,690	2,720	2,720	2,720	2,720	
指標9	在籍学生数	名	2,871	2,869	2,901	2,846	2,875	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	106.7%	105.5%	106.7%	104.6%	105.7%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	名	(8)	(8)	(9)	(9)	(2)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	—	—	—	—	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	—	—	—	—	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	名	28	34	38			

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入